

## 新地方公会計制度に基づく平成27年度(決算)小樽市の財務4表

### 平成27年度(決算)の財務4表の概要

本市では、平成20年度決算から、総務省の「新地方公会計制度実務研究会報告書」で示されている「総務省方式改訂モデル」を参考にして、普通会計（一般会計、特別会計の一部）と市の全会計（一般会計、特別会計、企業会計）を合わせた財務書類の作成を始め、その後、平成21年度決算からは、市が負担金や出資金などを支出している一部事務組合、公社や第3セクターなどの関係団体を含めた連結ベースでの財務4表を作成しています。

なお、平成28年度決算以降は、総務省において示された「統一的な基準」による財務4表の作成を行う予定です。

#### <財務書類の対象範囲>

会計名		平成20年度 決算	平成21年度 決算以降
一 般 会 計		↑ ↓	↑
特別会計	土地取得事業特別会計(平成25年度末で廃止) 住宅事業特別会計 産業廃棄物処分事業特別会計 物品調達特別会計(平成22年度末で廃止) 港湾整備事業特別会計 青果物・水産物卸売市場事業特別会計 国民健康保険事業特別会計 老人保健事業特別会計(平成22年度末で廃止) 簡易水道事業特別会計 介護保険事業特別会計 後期高齢者医療事業特別会計 駐車場整備事業特別会計(平成25年度末で廃止)		
企業会計	病院事業会計 水道事業会計 下水道事業会計 産業廃棄物等処分事業会計		
一部事務組合	石狩湾新港管理組合 石狩西部広域水道企業団 後志教育研修センター組合 北海道市町村備荒資金組合		
広域連合	北しりべし廃棄物処理広域連合 北海道後期高齢者医療広域連合		
地方三公社	小樽市土地開発公社(平成25年度末で解散)		
公益法人	(財)おたる自然の村公社		
第3セクター	(株)小樽水族館公社 (株)マリンウェーブ小樽 (株)小樽観光振興公社		

財務4表(概略版)の対前年度比較

【連結(関係団体含む)】

(1)貸借対照表

(単位:百万円)

資産の部(市が保有している財産)				負債の部(将来世代が負担する債務)			
	H26	H27	増減		H26	H27	増減
1 公共資産 (a)	259,278	255,231	△ 4,047	1 固定負債	113,184	109,436	△ 3,748
・有形固定資産 (土地、建物、道路、機械器具など)	258,463	254,427	△ 4,036	・地方債現在高(流動負債分を除く)	99,961	97,154	△ 2,807
・無形固定資産(借地権など)	59	58	△ 1	・退職手当引当金相当分(流動負債分を除く)	12,564	11,731	△ 833
・売却可能資産 (普通財産のうち売却可能なもの)	756	746	△ 10	・その他	659	551	△ 108
2 投資等	6,806	7,492	686	2 流動負債	15,505	15,604	99
・投資及び出資金	705	704	△ 1	・翌年度の地方債元金償還予定額	10,025	10,437	412
(3セク等に対する出資金など)				・翌年度支払予定の退職手当の額	1,089	1,289	200
・長期延滞債権 (収入未済額のうち前年度以前に発生した債権)	4,617	4,727	110	・短期借入金(翌年度繰上充用金を含む)	1,326	822	△ 504
・その他	1,484	2,061	577	・その他	3,065	3,056	△ 9
3 流動資産	9,308	11,256	1,948	負債合計 (c)	128,689	125,040	△ 3,649
・資金(現金・預金)	6,247	7,910	1,663	純資産の部(正味の資産)			
・未収金	2,756	3,051	295		H26	H27	増減
・販売用不動産	245	227	△ 18	純資産合計 (b-c) (d)	146,824	148,939	2,115
・その他	60	68	8				
4 繰延勘定	121	0	△ 121	負債及び純資産合計	275,513	273,979	△ 1,534
資産合計 (b)	275,513	273,979	△ 1,534				

(2)行政コスト計算書

(単位:百万円)

	H26	H27	増減
経常費用 (e)	112,236	116,089	3,853
1 人にかかるコスト	14,366	15,264	898
・人件費(退職手当などを除く)	13,740	14,182	442
・退職手当	122	566	444
・その他	504	516	12
2 物にかかるコスト	20,463	21,579	1,116
・旅費、光熱水費、委託料などの物件費	10,655	10,878	223
・施設の維持補修費	1,142	1,170	28
・有形固定資産の減価償却費	8,666	9,531	865
3 移転支出的なコスト	71,998	74,392	2,394
・社会保障給付(生活保護費などの扶助費)	65,591	65,933	342
・補助金等	5,994	7,956	1,962
・他会計に対する繰出金など	286	286	0
・その他	127	217	90
4 その他のコスト	5,409	4,854	△ 555
・地方債及び一時借入金の支払利息	1,786	1,337	△ 449
・市税及び使用料等の不納欠損額など	870	152	△ 718
・その他	2,753	3,365	612
経常収益 (f)	44,532	47,175	2,643
1 使用料・手数料	1,959	1,778	△ 181
2 分担金・負担金・寄附金	21,656	23,361	1,705
3 保険料	6,563	6,571	8
4 事業収益等	14,354	15,465	1,111
純経常行政コスト (経常費用-経常収益) (e-f) (g)	67,704	68,914	1,210

(3)純資産変動計算書

(単位:百万円)

	H26	H27	増減
期首純資産残高 (h)	156,331	146,824	△ 9,507
純経常行政コスト (7)	△ 67,704	△ 68,914	△ 1,210
(財源調達) (4)			0
一般財源	34,577	35,012	435
地方税	13,709	13,457	△ 252
地方交付税	16,753	16,557	△ 196
その他	4,115	4,998	883
補助金等受入	35,761	36,672	911
その他	△ 12,141	△ 655	11,486
期末純資産残高 (i)	146,824	148,939	2,115

(4)資金収支計算書

(単位:百万円)

	H26	H27	増減
1 経常的収支 (1)	8,985	12,921	3,936
2 公共資産整備収支 (2)	△ 91	△ 152	△ 61
3 投資・財務的収支 (3)	△ 10,569	△ 11,087	△ 518
翌年度繰上充用金増減額 (j)	0	0	0
当年度資金増減額 (k)	△ 1,675	1,682	3,357
期首(前年度末)資金残高 (2)	7,945	6,247	△ 1,698
経費負担割合変更に伴う差額 (m)	△ 23	△ 19	4
期末(当年度末)資金残高 (n)	6,247	7,910	1,663

## 各表の概要・対前年度比較

### (1) 貸借対照表

- 貸借対照表は、年度末（各年度3月31日）時点において、市が行政サービスを提供するために保有している「資産」と、その資産をどのような財源（「負債」・「純資産」）で賄われているかを示したものです。
- 左側の「資産」は市が保有している財産、右側の「負債」は地方債の未償還元金など将来の世代に負担してもらう債務、「純資産」は資産と負債の差額で「正味の資産」を表します。

資産の部 (b)	負債の部 (c)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公共資産 (a)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 固定負債</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 流動負債</li> </ul>
	<b>純資産の部 (d)</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 投資等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 純資産</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 流動資産</li> </ul>	

### 「貸借対照表」から分析できる主な指標

#### ◆ 純資産比率

・市が保有している資産のうち「正味の資産」（純資産）の割合のことをいい、企業の自己資本比率に相当します。この比率が高いほど負債が少ないということになり、健全性が高いといえます。

本市においては、前年度と比較して、資産では公共資産（有形固定資産）などが減少した一方、負債である起債残高が減少したことにより純資産が増加し、1.1ポイント増となりました。

	連結（関係団体を含む）		
	26年度	27年度	増減
純資産合計(d)／資産合計(b)	53.3%	54.4%	1.1

### ◆ 公共資産の世代間負担率

・社会資本形成の結果を示す公共資産を、純資産による形成割合を見ることによって、これまでの世代によって負担された割合を見ることができます。

本市においては、前年度と比較して、純資産が増加したことにより 1.8 ポイント増となりました。

	連結（関係団体を含む）		
	26年度	27年度	増減
純資産合計(d)／公共資産(a)	56.6%	58.4%	1.8

### ◆ 市民一人あたりの資産額、負債額、純資産額

(H27.3.31 現在人口：124,122 人、H28.3.31 現在人口：122,088 人)

#### 【連結（関係団体含む）】

(単位:千円)

資 産			負 債		
26年度	27年度	増減	26年度	27年度	増減
2,220	2,244	24	1,037	1,024	△13
(うち公共資産)	(うち公共資産)	(うち公共資産)	純資産		
2,089	2,091	2	26年度	27年度	増減
			1,183	1,220	37

## (2) 行政コスト計算書

- 行政コスト計算書は、1年間の市の経常的な行政活動のうち、資産形成に結びつかない行政サービスに係るコストと、使用料・手数料などの収入を示したもので、従来の官庁会計では捕そくできなかった非現金コスト（減価償却費など）についても計上しています。

### 「行政コスト計算書」から分析できる主な指標

#### ◆ 受益者負担比率

・行政コストのうち、行政サービスの受益者によって負担された割合をいいます。行政コスト計算書の経常収益は、受益者負担によって収益された金額であるため、経常費用との割合を見ることによって、この比率を算定することができます。

本市においては、前年度と比較して、経常費用では光熱水費や委託料などの物件費が増加した一方で、経常収益では分担金・負担金などが増加したことにより、0.9 ポイント増となりました。

	連結（関係団体を含む）		
	26年度	27年度	増減
経常収益(f)／経常費用(e)	39.7%	40.6%	0.9

◆ 市民一人あたりの経常費用、経常収益、純経常行政コスト

(H27. 3. 31 現在人口 : 124, 122 人、H28. 3. 31 現在人口 : 122, 088 人)

(単位 : 千円)

	連結 (関係団体を含む)		
	26 年度	27 年度	増減
経常費用 (e)	904	950	46
人にかかるコスト	116	125	9
物にかかるコスト	165	177	12
移転支的的なコスト	580	609	29
その他のコスト	43	39	△4
経常収益 (f)	359	386	27
純経常行政コスト (e-f) (g)	545	564	19

(3) 純資産変動計算書

- 純資産変動計算書は、貸借対照表の「純資産」が1年間にどのように増減したかを示したものです。

(単位 : 百万円)

		連結 (関係団体を含む)		
		26 年度	27 年度	増減
期首(前年度末)純資産残高 (h)		156, 331	146, 824	△9, 507
当期 変動額	純経常行政コスト (7)	△67, 704	△68, 914	△1, 210
	財源 調達			
	市税、地方交付税など一般財源	34, 577	35, 012	435
	国・道補助金等受入	35, 761	36, 672	911
	その他	△12, 141	△655	11, 486
	小計 (4)	58, 197	71, 029	12, 832
期末(当年度末)純資産残高 (h+7+4) (i)		146, 824	148, 939	2, 115

#### (4) 資金収支計算書

- 1年間の現金の収入（歳入）と支出（歳出）が、どのような理由で増減しているかを、性質別に区分して整理したものです。

（単位：百万円）

		連結（関係団体を含む）		
		26年度	27年度	増減
期首(前年度末)資金残高 (l)		7,945	6,247	△1,698
当期 収 支	<b>経常的収支～経常的な行政活動から発生する収支</b> (1) ・主な収入 市税、地方交付税など ・主な支出 人件費、物件費など	8,985	12,921	3,936
	<b>公共資産整備収支～公共資産整備に係る収支</b> (2) ・主な収入 国・道補助金、市債など ・主な支出 普通建設事業費など	△91	△152	△61
	<b>投資・財務的収支～貸付金などの財務的な収支</b> (3) ・主な収入 貸付金元金回収、財産売却収入など ・主な支出 市債元金償還、貸付金など	△10,569	△11,087	△518
翌年度繰上充用金増減額 (j)		0	0	0
当期資金増減額 ((1)+(2)+(3) + j) (k)		△1,675	1,682	3,357
経費負担割合変更に伴う差額 (m)		△23	△19	4
期末(当年度末)資金残高 (l+k+m) (n)		6,247	7,910	1,663